

6月23日 沖縄慰霊の日



ひろしま

郵政産業労働者ユニオン
広島支部(広島郵便局内)
支部メールアドレス
piwu_hiroshima@yahoo.co.jp



6.23 沖縄慰霊の日
毎年6月23日は、沖縄県民にとって忘れられない日となっております。日本国内で唯一地上戦が行われ、20万人以上の戦死者のうち半数の1

0万人近い一般の人が亡くなっています。

この6月23日は、沖縄防衛第三十二軍司令官牛島満中将他が糸満の摩文仁にて自決した日であり沖縄戦の組織的な戦争の終結の日となっております。しかし、一般兵士による沖縄の戦いは、その後9月まで2ヶ月以上も続いています。

73年目となる沖縄慰霊の日に全国の仲間が集う今年には郵政を中心とする多くの仲間がこの慰霊の日に沖縄に集まりました。

毎年取り組まれている沖縄ピースサイクルをはじめ、オーラル郵政第九次沖縄派遣団、郵政近畿沖縄ツアー、広島沖縄ツアーと全国各地から結集してきました。沖縄の現状は、自然を破壊し米軍基地強化拡大に向け突き進んでいます。やんばるの森を破壊し、名護市辺野古沖合では、

米軍普天間基地の移設先として豊かな海を埋め立てています。

沖縄全戦没者追悼式



6月23日に開催された「沖縄全戦没者追悼式」にて中学3年生の相良倫子さんが詩を読み上げてきました。沖縄の現代から過去の悲惨な地上戦を振り返りそして未来に向け力強い平和の発信をしてきました。全文は組合掲示版に掲載していますのでここではその一部

を抜粋して紹介します。

平和の詩「生きる」

相良倫子

私は、生きている。
 マントルの熱を伝える大地を
 踏みしめ、
 心地よい湿気を孕んだ風を全
 身に受け、
 草の匂いを鼻孔に感じ、
 遠くから聞こえてくる潮騒に
 耳を傾けて。
 私は今、生きている。
 ……
 七十三年前、
 私の愛する島が、死の島と化
 したあの日。
 小鳥のさえずりは、恐怖の悲
 鳴と変わった。
 優しく響く三線は、爆撃の轟
 に消えた。
 青く広がる大空は、鉄の雨に
 見えなくなつた。
 ……
 私は手を強く握り、誓う。
 奪われた命に想いを馳せて、

心から、誓う。
 私が生きている限り、
 こんなにもたくさんの命を犠
 牲にした戦争を、絶対に許さ
 ないことを。

もう二度と過去を未来にし
 ないこと。
 ……

真の平和を発進しよう。
 一人一人が立ち上がって、

みんなで未来を歩んでいこう。
 摩文仁の丘の風に吹かれ、

私の命が鳴っている。
 過去と現在、未来の共鳴。

鎮魂歌よ届け。悲しみの過去
 に。

命よ響け。生きゆく未来に。
 私は今を、生きていく。

米軍関連施設のほとんどか
 沖繩に集中し、今なお基地の
 強化・拡大が進みつつある。
 「沖繩のこころ」は、戦後から
 現代に至るまで踏みにじられ
 てきた。この平和の詩「生き
 る」に「沖繩のこころ」がある。



糸数アブチラガマを訪れて

郵政近畿沖繩ツアーと広島
 沖繩ツアーの17名が6月23
 日、糸数アブチラガマを見学
 した。糸数アブチラガマは、沖
 縄南部の糸数にある全長27
 0mの自然洞窟(ガマ)で市民の
 避難場所となっており、後に
 南風原陸軍病院の分室となっ
 てきた。600名もの負傷兵が
 運ばれ、ひめゆり学徒が配属
 された場所でもある。説明で
 は、このガマのおかげで奇跡的

に生き残った負傷兵と住民
 がいることは忘れてはならな
 いと記せられている。

沖繩では多くの自然洞窟
 (ガマ)が点在しているが、ガマ
 に入れるのは糸数アブチラガ
 マだけとなっている。近畿・広
 島17名のメンバーは、ガイド
 さんの説明を聞きながら平
 和学習を体験してきた。

ガマの中では懐中電灯の灯
 りだけを頼りに、濡れた岩肌
 に足を取られ、腰を屈めなが
 ら狭いガマを進んだ。ガイド
 さんからは、米軍の投稿勸
 告の8月22日までのガマでの
 実態を聞いてきた。

ひめゆり学徒からの証言で
 は、暗いガマで良かった、命は
 髪の毛が抜け落ちるかのよ
 うに亡くなつていったなど証
 言をされ、それでも地上戦
 よりもガマの方が生き延
 びることができ良かったと。
 「糸数アブチラガマ」、是非
 とも訪れるべき場所である。